



「大きくなつて」と声を掛け稚魚を放流する児童ら

稚魚1000尾(8センチ以上)を海に放した。

三浦市・小網代パール海育隊

マダイなど種苗放流

市内4小学校児童ら

【三崎】神奈川県三浦市のNPO法人小網代パール海育隊(出口浩代表理事)は11日、同市小網代湾の岸壁で市内4小学校の児童103人が参加する「マダイ・クロダイ種苗放流体験会」を行い、合計2500尾のマダイ・クロダイ種苗を放流した。

参加したのは三崎、岬陽、名向、剣崎の小学校3、4年生。神奈川県栽培漁業協会が飼育したマダイ稚魚1500尾(体長10センチ以上)とクロダイ

放流に先立ち、今井利為県栽培協専務は、小網代の森と干潟と海の貴重さ、アマモが幼魚の成育の場であり、水をきれいにする海藻であることを紹介したあと、マダイとクロダイの成長の様子などを説明した。

出口代表理事は「海を豊かにする取り組みに協力して」とあいさつ。県栽培協職員らに小さなバケツに数尾の稚魚を入れてもらった児童らは、「大きくなって戻ってきて」と声を掛けつつ、放流台から何度も海に放した。

同海育隊は、同湾が日本の真珠養殖の発祥地であることを知ってもらおうと2015年5月に設立。小学生に稚魚放流の体験やアコヤ貝の中で真珠が育つことを紹介するなど、海の環境保護と資源の大切さを啓発する運動を行っている。